女に注意しながらストーブの踏板に坐つた。

彼女は椅子から立ち上つて、しづ〳〵と自分の寢臺の方へ動いて行き、寢床の上へ横たはりながら手巾で汗ばんだ顏を拭ひ始めた。彼女の手は不確かに動いた。二度も彼女は顏を拭ひ損つて枕に觸つたほどであつた。

「水をお呉れ……」

私は手桶から茶碗に汲んで差出した。彼女は漸く頭をあげて一寸咽喉を濡ほした。そして冷たい手で私の手を掴ひのけて强く呼吸した。それから隅つこの聖像を見やつてから、眼を私の顏に移して、ちよつと微笑んだのかしらと思ふ位ゐに脣を動かして、長い睫毛を眼の上に下ろした。その時はぢつと兩脇にくつゝき、手は輕く指先を動かしながら胸をずつて咽喉の方へ動いた。影はその顏中を匍ひ廻つて、黄ろい皮膚を引張り、鼻を尖らして、顏の深みに隱れた。不思議なほど大きく口を開いたが、呼吸はもう聞えなかつた。

私は彼女の顏が凝り固まり灰色になるのを見ながら、手に茶碗を持つて彼女の臥床の傍に測り難き長い間立つてゐた。

祖父が這入つて來たので私は彼に云つた。

「お母さんが死んぢやつた……」

彼は臥床をチラと見て、

「何、嘘を云へ？」

彼はストーブの傍へ行つて、耳も聾するばかり爐蓋を厭に音させながら饅頭を取り出し始めた。私は母が死んだことを知り、また彼がそれを知る時を期待しながら彼の方を見つめてゐた。

繼父は帆布製の脊廣を着、白い帽子を被つてやつて來た。彼は音のせぬやうに椅子をつかんで母の臥床の傍へ持つて行つたが、俄かに椅子を床板に敲きつけて聲高に銅の喇叭のやうに叫んだ。

「うん、死んぢまつた、見なさい……」

祖父は眼をむき出して、盲者のやうに躓きながら爐蓋を持つたまゝ、ストーブから放れた。

母の葬式後數日經つてから祖父は私に云つた。

「さあ、レキセイよ、お前はわしの首にぶら下つてるメダルぢやない……此處はお前の居る所ぢや無いんだよ……さあ、世の中へ出て行け……」

そして私は世の中へ出て行つた。

——『思ひ出の記』了——

大正八年十月十三日印刷
大正八年十月廿八日發行

（定價壹圓貳拾錢）

思ひ出の記

飜譯者　關口彌作

發行者　東京市牛込區矢來町三番地中の丸　佐藤義亮

發行所　東京市牛込區矢來町三番地　新潮社
電話番町（八〇九番）（八九九番）

振替（東京）一七四二番

印刷所　東京市神田區宮本町五番地　電話下谷、四〇六七番　印刷者　高橋治一　新潮社印刷部

露國文豪アルツイバアセフの代表作

勞働者セキリオフ

忽ち三版

■露西亞の大革命を題材■
■とせる傑作小說の集也■

中島清氏譯

中版總洋布紙數四百頁▼價壹圓貳拾錢▼郵送料拾錢

『サアニン』の作者として聞ゆる露西亞現下文壇の第一人者ミハイル・アルツイバアセフが、一九〇五年の露西亞革命の心理を取扱へる一篇即ち、この『勞働者セキリオフ』である。セキリオフは、熾烈なる情熱を以てその男性的意氣地を鍛へ、崇高なる理想を以てその獻身的精神を打成せる一革命主義者である。彼がいかに思考し、いかに行動し、いかにその悲劇的最後を遂げたか、作者獨得の清新潑剌の筆は、直に人に迫るの實感を以てよくそれを描破してゐる。附錄として、一九一六年の露西亞大革命を題材とせる「朝の影」「血の痕」「醫者」等の諸篇を添ゆ。『サアニン』に於いて虛無主義者としての彼を見たろ讀者は、此の書に、革命家としての彼の又別箇なる面目を觀て、坐ろに肉躍り血湧くのおもひをなすであらう。玆に『サアニン』の譯者中島氏再び其の健筆を呵して此の世界的佳篇を譯出す、時節柄興味の更に一層なるものがあらう。

露國文豪アルツイバアセフの代表作

■サアニン（縮刷）

中島清氏譯

中版總洋布▼價壹圓八拾錢六百五十頁▼郵送料八錢

若き美しき處女と青年との一團の中に、大膽なる個人主義者サアニンを置きて、その相交錯せる戀愛生活の裏に、思ひ切つたる肉の福者を說く。世、斯くの如く性慾生活を描いて大膽なるものあるなし。而してその眩惑的なる濃厚の色彩と、その陶醉的なる芳烈の香氣とを以て、奔放なる新人生觀を裝ふところ、寔に、無類の作品也。基督敎に比較されたる異端主義、習俗の固陋に比較されたる偶像破壞主義、而して凡庸に比較されたる超人主義――新しき露西亞が叫べる此の新しき聲を聞いて、自己現前の問題の一ヒントを得ざる可からず。

■ランデの死

原白光氏譯

中版總洋布▼價壹圓貳拾錢三百八十頁▼送料八錢

一人の人道主義者の其の主義に殉じたる悲痛の死を描けるものにして、此作者の代表作の一つ也。月夜の逍遙、螢火明滅する闇夜の接吻、瀕死の病人の黑き呻き、若く美しき處女の肉の惱み、生活の蠱惑と冒險――その大體の構圖に於て、肉の香の高きに於て、最も『サアニン』に類似せるもの也。附錄に『惡人』『深淵』『死よりも强し』『不治病院』の四篇を收む。いづれも高名の作のみ也。

佛國文豪アレキサンダア・ヂユウマ著
谷崎精二氏 三上於菟吉氏共譯

モントクリスト伯爵

全二冊 前出 編來

總洋布特製美本 一冊壹圓七十錢 郵送料十錢

世界稀有の大藝術品にして而も其の興味の豐かなること亦眞に無比大探偵小說を讀むの感あり

佛蘭西浪漫派の作家にして、ユーゴーにつぐ大立物は、實に、アレキサンダア・ヂユウマ也。而してヂユウマが數多き小說中、其代表作として**世界の讀書界を風靡**しつゝあるを「モントクリスト伯爵」の一篇となす。荒灘上の一巖窟裡に匿藏せられたる大金あり、聖僧、勇士、美姫、奸人、さまゝの人物の其れを中心として活躍するところ、波瀾重疊して具さに傳奇小說の興趣限りなきを示せり。通俗の妙、やゝもすれば藝術の眞を害ふもの多きが中に、兩者併せ得たる、此の篇の如きは寔に少し。淚香小史の『**巖窟王**』夙に世に行はるゝも、童幼の爲めにせる抄譯に過ぎず。その藝術としての眞價に至つては、此の全譯を待つて始めて知る可きのみ。

米國 セルチェル氏編 第一編

露國十六文豪集

衞藤利夫氏譯

忽三版

世界短篇傑作叢書

■總洋布製▼定價壹圓貳拾錢 送料拾錢■

■下記の十六文豪の代表的短篇を集錄せり
■一卷以て露西亞文學の全面容を知る可く
■露文學發達の跡を見る可き實物鳥瞰圖也
■露文學に關する編者の雄大なる論文あり
■編者は米國に於ける露文學研究の權威也
■最も便利なる近代露文學總覽と云ふ可し

ブーシキン
ゴーゴリ
ツルゲーネフ
ドストエフスキー
トルストイ
サルチーコフ
コロレンコー
ガルシン
チエホフ
ソログーブ
ポタペンコー
セミヨーノフ
ゴーリキイ
アンドレーフ
アルチバーセフ
クープリン

第二編▼英米文豪短篇集（目下印刷中）

第三編▼佛蘭西文豪短篇集（目下印刷中）

■ドストエーフスキイ全集■

トルストイと並んで全人類の運命を負へる大偉人ドストエーフスキイの作品を、直接に露の原文より譯出して此の全集をつくる。各册何れも堂々たる長大篇のみ也。

(1) カラマーゾフの兄弟 米川正夫譯

武者小路氏が、驚く可き本だ、世界にこんな本が又とあるかと云ひたい。無いにきまつてゐる、驚く、驚く。と言ひしもの。作者が畢生の心血を濺ぎて描ける代表的一大雄篇也。

▼全三册　一册壹圓五拾錢、送料八錢づゝ

(2) 虐げられし人々 昇曙夢譯

人間數奇の運命を描き盡くして、滿眼の熱涙を世の虐げられし人々に注ぐ。殊に、一面戀に破れたる沈痛の經驗をさながら描ける作者の自叙傳として別樣の感興深きものあらん。

▼全一册　定價壹圓七十錢、送料八錢

(3) 罪と罰 米川正夫譯

襟を正して讀む可き嚴肅無二の作物にして、而も結構の複雜、變化の端睨すべからざる、篇中章を追ひて繼起する事件の悉く驚心駭魄的なる、古今に類を絶せる大探偵小說の觀あり。

▼全二册　一册壹圓三十錢、送料八錢づゝ

(4) 白痴 米川正夫譯

『カラマーゾフ』に次ぐ雄篇にして、實に作者が藝術益々爛熟し來るの時に出でゝ深刻殊に甚しく、樣々の人物、人間苦の深淵に轟轟し、樣々の心理、等しく靈肉の祕奧を窺はしむ。

▼全二册　一册壹圓七十錢、送料十二錢づゝ

(5) 賭博者 原白光譯

賭博場を背景として、誇り高き處女と魅力强き娼婦との間に置かれたる一青年の苦悶を描き、縱横の奇想の裏に博大の人間愛を潛めたるもの。附錄に『貧しき人々』の一篇あり。

▼全一册　定價壹圓四拾錢、送料八錢

(6) 惡靈 米川正夫譯

原作者の全精神を最も深刻に最も明白に語れるものは『カラマゾフ』と此の『惡靈』也。神人の理想と人神とを並び說いて、此の大天才の幽奧測り難き魂の深淵を啓き示せる大傑作也

▼全二册　價壹圓七十錢、送料十二錢づゝ

(7) 永遠の良人 原白光譯

——近刊——

□目下印刷中□

トルストイ著　相馬御風氏譯

■我が懺悔

トルストイ齢五十、藝術の榮光に輝ける前半生を否定して、宗教的精神の途に上らんとし、敬虔の涙を以て昨の非を懺悔せるもの也。（七版）▼定價七拾錢、郵送料六錢

トルストイ著作

■人生論

相馬御風譯

極めて平明、趣味豐かなる筆を以て這の一大問題を縱横に說き去り說きいて來る。杜翁の根本思想は、本篇に於いて遺憾なく窺ふことを得べし。

■性慾論

相馬御風譯

性慾は最も嚴肅にして又最も痛切なる事實也。曠世の偉人トルストイは此問題につきて奈何に感受し、はた奈何に解釋せるかを看ざる可らず。

■光あるうち光の中に歩め

阿部次郎譯

初代基督教に關する見解を最も平明に、簡樸に、而して感情を以て美しく描き成せる小說にして、彼が戀愛觀結婚觀を端的に知ることを得べし。

一冊四拾五錢・送料六錢宛

【脚本】復活（縮刷）

トルストイ原作　島村抱月氏脚色

藝術座の公演脚本として、カチューシヤの名天下に喧傳せしめたるもの。杜翁の一大雄篇『復活物語』として見るも亦可也。

▼縮刷新刊▼定價五十八錢、送料六錢

ツルゲーネフ全集

(1) 獵人日記

生田長江譯

自然と風物と民情との纖細精緻なるスケッチの一大集粹にして作者の特技たる戀愛描寫は、其自然描寫と共に、叢中の花の如く點綴せらる（價一圓七十錢）

(2) ルーヂン

田中純譯

ルーヂンと云ふ多情多感の人物と、ルーヂンに戀せる少女ナタリヤとを描きて、戀愛文學者としての作者の手腕を遺憾なく發揮せるもの也。

(3) 初戀

生田春月譯

作者得意の戀物語。附錄には、妖麗の女優が淸純の青年と相擁して死に至る『クララミリッチ』。及び深刻を極むる『ファフスト』の二傑作あり。

(4) その前夜

田中純譯

慨然として故國の難に赴ける志士インサロフを情人として、火の如き戀を高き理想にあざなへる少女ナタアシヤの、活けるが如き描寫を見よ。

(5) 煙

大貫晶川譯

艶麗哀切なる戀物語にして零落せる貴族の娘と若き大學生との間に結ばれたる情思を經とし、露西亞四十年代の時代の苦悶を緯として描く。

(6) 父と子

谷崎精二譯

原作者の作中最も多く讀まれ、又最も意味深きものとして喧傳せらる。個人主義と虛無主義と、作中の主人公に貫く此の精神を看よ。（價一圓二十錢）

價一圓＊送料八錢づゝ

人と藝術叢書

海外諸文豪の日記書簡回想記の類を輯め裏面乃至側面から直に其人と生活とを窮はしむるものである

第四編 ■巴里の三十年（新刊）

ドオデエ著
後藤末雄氏譯

佛蘭西の文豪ドオデエが晩年自ら筆をとりて、如何にして文學に志せしか、如何にして文壇の人となりしか、如何にして其の三十年の文壇生活を送れるかを述べたるもの。これを文豪生ひ立ちの記と見るも可、文豪立志篇と見るも亦可也。其文壇への憧憬と初陣、その作家としての悦樂と苦み、その交遊、その日常生活の巨細を、美くしき筆に描ける所、文豪の樂屋觀として興趣頗めて豐か也。

第一編 ■トルストイ書簡集

石田三治氏譯

第二編 ■トルストイ日記

昇曙夢氏譯

第三編 ■ドストエーフスキイ書簡集

山村暮鳥氏譯

◀上製美本▶ 一部金六十五錢 ◀送料六錢▶

388
140

終